# 森の四季 Vol.124

只見町ブナセンター
TEL 0241(72)8355

## ミソハギ （学名：*Lythrum anceps*）

［ミソハギ科ミソハギ属］

（写真・文　緒勝祐太郎）

◀8月のお盆ころ、鮮やかな紫色をしたミソハギの花が山野の水辺を彩る

◀吸蜜のためミソハギの花を訪れたクマバチ

祖先の霊を弔うお盆では、野外で採ってきた盆花（ぼんばな）を仏前やお墓に供え、盆飾りをつくる風習がありました。盆花として使われる只見の代表的な草花に、ミソハギが挙げられます。名前は、漢字で“禊萩（みそぎはぎ）”（あるいは水萩）と書き、祭事に用いられたことに由来するとされます。

ミソハギは、北海道から九州まで全国に広く分布します。田んぼの周辺や休耕田、池の縁（ふち）など山野の湿った場所に生える多年草で、しばしば群落をつくります。只見町では、本種と似ているエゾミソハギも分布します。両種とも同じような環境に生育しますが、ミソハギは高さ50～100cmであるのに対し、エゾミソハギは高さ150cmほどと大きく、茎や葉、萼に短毛を密につけるといった点から識別できます。どちらも赤紫色の花を穂状につけますが、これはクマバチなどのミツバチ類やハナバチ類にとって重要な蜜源になります。

盆花として利用される植物は、地方によって様々です。南会津地域の中では、只見町で主にミソハギ（またはエゾミソハギ）、旧田島町（現南会津町）や下郷町などではオミナエシ、キキョウ、フシグロセンノウといった草地性の植物が用いられます。それぞれの地域に自生し、かつ盆の時期に開花する植物が利用されたと推測されます。しかし近年、茅葺き屋根の衰退にともなう茅場への植林や樹林化などにより、各地で草地が姿を消しているために絶滅が懸念される植物も増えてきました。そのために盆花が造花や栽培花にとって代わり、野外へ採りにいくこともなくなっています。かつての盆花は、こうした人との共生を通じて繁栄してきた植物といえます。

### 只見町ブナセンターからのお知らせ

只見町ブナセンター付属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」では、下記の通り企画展「只見の養蚕」を開催しております。お誘いあわせのうえ、ぜひお越しください。

企画展「只見の養蚕」
会期：2020年7月4日（土）～2020年10月5日（月）
場所：ただみ・ブナと川のミュージアム　2階ギャラリー

※この広報紙は再生紙を使用しています

VEGETABLE OIL INK
※環境にやさしい大豆油インキを使用しています

■ 発行／只見町　〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下2591-30
■ 編集／地域創生課広報広聴係　https://www.town.tadami.lg.jp/　☎0241(82)5220